

ぼむ・ぼむ通信

No. 65

生協の組合員と日本ユニセフ協会を結ぶネットワーク通信「ぼむぼむ通信」は、生協組合員のボランティアグループで発行・編集をしています。生協のユニセフ活動に積極的にご活用ください。



アンゴラスタディツアーレポートより



(C)UNICEF/NYHQ2007-0878/Cranston

知つとこ。ユニセフより



2014 ユニセフリーダーセミナーより

目次

◇人道危機緊急募金	1
南スーダン～コレラと栄養不良、二重の危機～	
◇アフリカ緊急募金	3
西アフリカ～エボラ出血熱の感染拡大阻止のために活動拡大～	
◇知つとこ。ユニセフ 遊ぶ権利	4
◇世界の子どもたちは今 南スーダン共和国	5
◇生協のユニセフ支援活動	6

* 「ユニセフ・子どもセミナー～まずは、知って・考え そして、行動しよう！～」

(コープみらい さいたまエリア)

◇トピックス

* 児童ポルノ「単純所持」の禁止を含む法改正が実現	7
* (「世界手洗いの日」プロジェクト)	8
* 2014ユニセフリーダーセミナーを開催しました	9
* アンゴラスタディツアーレポート～日本生協連～	11

ぼむ・ぼむ通信 活用のすすめ

- すべてのページをコピーしなくとも、「知つとこ。ユニセフ」や「世界の子どもたちは今」を集めて、資料としてご活用いただけます。
- ユニセフのつどいやユニセフ展、学習会の際に資料としてご活用いただけます。
- 店舗の募金箱の近くに置いて、生協のユニセフ活動を紹介する際にご活用いただけます。
- 生協の管理している文化センターなど、共用施設の雑誌コーナーなどにもご活用いただけます。
- 写真のコンテンツも充実しているので、カラーコピーでのご使用をおすすめします。



人道危機緊急募金 南スーダン～コレラと栄養不良、二重の危機～

2011年に独立したばかりの世界で最も新しい国、南スーダン共和国。2013年12月に発生した武力衝突により、何万人もの人々が安全を求めて国内外へ避難するなか、ユニセフは子どもたちがコレラなどの感染症や栄養不良の深刻な危機にさらされていると指摘しています。

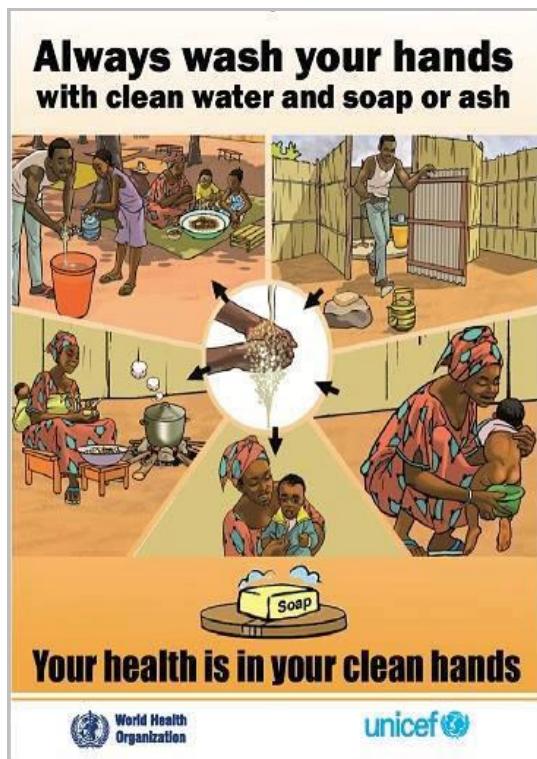
ユニセフ・南スーダン事務所代表のジョナサン・ヴェイチは「コレラの発生という事態の深刻さは、この国の子どもたちを苦境においていることの表れの一つに過ぎません。すでに栄養危機で健康を損なっている子どもたちは、コレラの発生によって、さらに厳しい状況に置かれるのです」と訴えます。



©UNICEF 2014/Kent Page
首都ジュバで、ユニセフはテント式の治療センターを開設。コレラに対する治療を行っています。

◆コレラ感染拡大止まらず、122人死亡

2014年5月に首都ジュバでコレラの感染が確認されて以来、これまでに約9万人がコレラの予防接種を受けたにもかかわらず、コレラ患者は日々増加しています。致死率は高く、これまでに5,561人の感染を確認し、うち122人が死亡しました(2014年8月現在)。



World Health Organization

unicef

©UNICEF/2014

コレラを予防するための啓発ポスター
「石けんときれいな水でいつも手を洗いましょう。
あなたの健康はきれいな手の中にあります」

ユニセフは、コレラ治療センターの設置を支援し、トリアージ(重症度判定検査)と患者の治療のためのテント、衛生備品、清潔な水、経口補水療法のための資材などを提供しています。また、数百人に対し研修を行い、状況を説明したほか、コミュニティにコレラ対策をおこなうよう指導しました。

◆栄養不良の治療が必要な子ども、去年の倍に

また南スーダンでは、今年、5歳未満の子ども推計23万5,000人が重度急性栄養不良の治療を必要とするとみられています。昨年の倍にあたる規模です。加えて、67万5,000人が、中度重度急性栄養不良の治療を要する見込みです。厳しい状況が続き、治療を必要とする栄養不良の子どもたちのうち、これまでに治療を受けられた子どもはわずか10%に過ぎません。

国際社会が栄養不良への支援に直ちに取り組み、食糧や栄養支援を拡大しなければ、ユニセフは、今年5万人の子どもが栄養不良で死亡する恐れがあると推測しています。

◆重度栄養不良の女の子、5日間の治療で見違える姿に！



© UNICEF South Sudan/2014/Elrington

重度栄養不良に陥り、体液が溜まって前身がむくんでしまったメアリーちゃん。ひどい痛みを伴うため、病院で泣き続けていました。

● ひどい痛みで泣き続けるメアリーちゃん

首都ジュバにあるユニセフが支援するサッバーフ小児病院で、重度急性栄養不良の一形態であるクワシオルコルを発症して治療を受けているメアリーちゃん。重度急性栄養不良のほとんどの場合、すぐに口にできるペースト状の治療食を提供し、通院治療をおこなうことで回復に向かいます。

しかし、メアリーちゃんのようにクワシオルコルを発症している場合には、病状が改善するまで入院して緊急のケアを受ける必要があります。

メアリーちゃんは極度に衰弱しており、体液が溜まって皮膚が張り、身体全体がむくんでいました。ひどい痛みを伴うため、メアリーちゃんはずっと泣いていました。

● たった5日間の治療で病状が改善

病院に連れて来られた日から、治療用ミルクと医療ケアを受けたメアリーちゃんの病状は、たった5日という短い期間で、見違えるほど改善しました。

子どもは栄養不良に陥ると、身体が衰弱し、元気で健康な時には決して感染することのない、多くの病気にかかりやすくなります。しかし、重度急性栄養不良に陥った子どもたちに専用の治療用ミルクを与え、合併症の治療を行うという極めて簡単に施せる治療法で、病気と闘うための力を再び取り戻すことができるのです。更に数日間治療やケアを受けることで、メアリーちゃんは間もなく自宅に戻れるでしょう。



© UNICEF South Sudan/2014/Elrington
治療用ミルクと合併症の治療を受けて回復に向かっているメアリーちゃん。

ユニセフとパートナー団体は、栄養不良や命に危険のある病気から子どもたちを守るため、たどり着くことが容易でない人里離れた地域で支援活動を行っています。そして、メアリーちゃんのような子どもたちに支援を届けるため、更なる緊急の資金を必要としています。

◆ 人道危機緊急募金 ◆

日本ユニセフ協会では、南スーダンや中央アフリカ共和国をはじめ、紛争、武力衝突などの厳しい状況下に置かれている子どもたちに対してユニセフが行う緊急支援のための
人道危機緊急募金を受け付けています。あたたかいご支援をよろしくお願ひいたします。

郵便局(ゆうちょ銀行)募金口座
振替口座: 00190-5-31000
口座名義: 公益財団法人 日本ユニセフ協会

*通信欄に「人道危機」と明記願います。
*窓口からのお振込の場合、送金手数料は免除されます。

(参考資料:日本ユニセフ協会ホームページ 人道危機緊急募金 5/18, 7/2, 7/8, 7/10, 7/25記事、UNICEF 南スーダン 8/5 状況報告書)



アフリカ緊急募金 西アフリカ～エボラ出血熱の感染拡大阻止のために活動拡大～



©UNICEF Liberia/2014/Ajallanzo
チラシを見ながらエボラ出血熱の予防法を住民に伝えるユニセフ職員。

西アフリカで感染が続くエボラ出血熱。ユニセフは、ギニアとその周辺国においてエボラ出血熱感染拡大を防止するため、広報活動や水と衛生活動を中心に、支援活動を行っています。

また、予防・治療のために、医薬品や医療機器、医療関係者と患者用の緊急備品(ビニール手袋、防水シート、ビニールマット、点滴、経口補水液)、入院施設用のテント、消毒剤と噴霧器の提供もおこなっています。

エボラ出血熱の徴候や予防法をまとめたポスターとチラシを作り配布するほか、町や村、市場など人が多いところで、直接説明をし、エボラ出血熱への正しい理解と手洗いなどの予防法、人が亡くなった時の対処法などを広めています。

感染拡大を防ぐのに欠かせないのが、感染した人と接触した人の状況確認です。早期に感染者を発見し、隔離したうえで、できる限りの対処療法を行うことが必要です。

◆ エボラ出血熱から回復した女性

エボラ出血熱に感染して衰弱していたにもかかわらず、隔離病棟から健康な姿で家に戻ることができる患者もあります。医学生のカディアトゥさんは、ギニアで感染が確認された初期の患者です。カディアトゥさんの身体にはまず、頭痛や高熱の症状が表れ、その後、下痢や嘔吐が始まりました。



©UNICEF/2014

検査後、カディアトゥさんは隔離病棟に入院しました。「最初、エボラ出血熱の患者はみんな同じ部屋にいました。しかし、しばらくすると症状が回復した人たちが、私たちと別の部屋に移されていました。私はその時、エボラ出血熱に感染しても生き延びることができたのだと知りました。たくさんミネラルウォーターを飲み、点滴を受け、そのおかげで回復することができたのだと思います」数日後、カディアトゥさんは新しい服やエボラ出血熱から回復したという証明書をもらい、退院することができました。

◆ アフリカ緊急募金 ◆

日本ユニセフ協会では、アフリカ諸国における感染症の流行、干ばつや洪水などの厳しい状況下に置かれている子どもたちに対してユニセフが行う緊急支援のためのアフリカ緊急募金を受け付けています。あたたかいご支援をよろしくお願ひいたします。

郵便局(ゆうちょ銀行)募金口座
振替口座: 00190-5-31000
口座名義: 公益財団法人 日本ユニセフ協会

*通信欄に「アフリカ」と明記願います。
*窓口からの振込の場合、送金手数料は免除されます。

(参考資料: 日本ユニセフ協会ホームページ アフリカ緊急募金 第5報、第8報)

知りたい？ 知っとこ。ユニセフ 遊ぶ権利

メッシもベッカムも親善大使

2014年にサッカーブラジルW杯で、MVP賞に輝いた、アルゼンチンのメッシ選手 ...
2010年よりユニセフ親善大使を務めていること、ご存知ですか？
あのイングランドの、デビッド・ベッカムも2004年より、ユニセフ親善大使です。



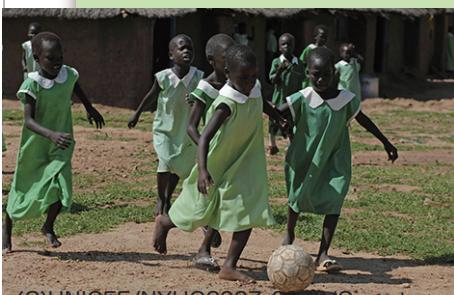
FCバルセロナのユニフォームにはUNICEFのロゴ

スペインのFCバルセロナは、2006年9月、ユニセフとのパートナーシップを発表。
選手のユニフォームには「ユニセフ」のロゴがあるのをお気づきですか？

長谷部誠選手の

子どもたちへの温かい応援メッセージビデオをご覧になった方も多いかと思います。

サッカーをして遊ぶ、
南スудanの女の子たち



(C)UNICEF/NYHQ2007-0878/Cranston

サッカーと ユニセフ

1999年以降、
FIFAはユニセフと提携
合い言葉は
「ピュア・ホープ、ピュア・フットボール」



フィールドへ選手をエスコートする子どもたち
の姿は、未来の主役が子どもたちであることを
象徴しています。



子どもの権利条約 31条

「休み、遊ぶ権利」

子どもは休んだり、遊んだり、
文化・芸術活動に参加する
権利があります。

すべての子どもたちは、「教育を受ける権利」と同様、「遊ぶ権利」を持っています。そして「遊び」や「スポーツ」は、「教育」と同じぐらい、子どもたちの人生に大きな影響力を持っています。

子どもたちはスポーツを通じて、社会的な価値を知り、社会性を身につけます。他人と力を合わせること、自分を信じ律すること、ルールを守ること、他人の価値を認め信頼すること。

スポーツは、子どもたちの身体を鍛え、心を育てます。

「ユニセフハウス」に展示してある
緊急支援テントの中には、
ぬいぐるみやボールが ...



ユニセフは遊びやスポーツを大切にして、
さまざまな支援を行っています



避難所には、「子どもにやさしい空間」
(Child Friendly Space)を設置 ...



世界の子どもたちは今



南スудан
共和国



コレラ感染拡大

南スуданは、2011年に誕生した最も若い独立国です。

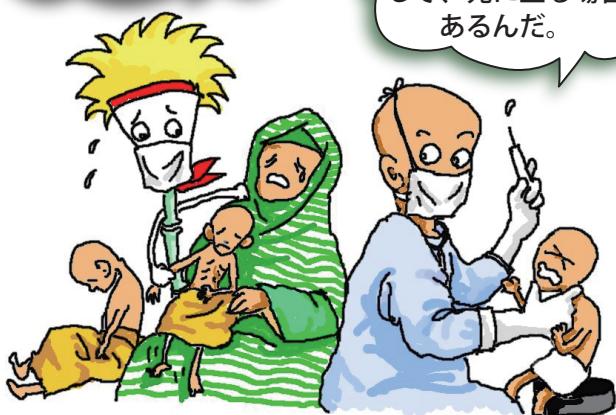
長年の内戦を経て独立したものの、今度は民族対立が激しくなり不安定な情勢が続いています。

自宅を離れ避難生活を送っている人は150万人以上。その半数以上が18歳未満の子どもたちです。

今、国民の3人に1人が危機的な食糧不足と言われています。

★栄養不良とコレラ

特に子どもは、栄養不良で身体が弱っているから、すぐにでも食糧、栄養支援をしなければ、『今年中に5万人の子どもが死亡する』…と予測されているんだ！



それに、コレラの感染が拡大しているんだよ！コレラは強い感染力があり、発症すると、米のとぎ汁のようなひどい下痢が何回も続き、脱水症状を起こして、死に至る場合もあるんだ。

1

★感染しやすい状況

雨期に入り、洪水などが発生！難民キャンプも浸水して、衛生状態が最悪になってるね。

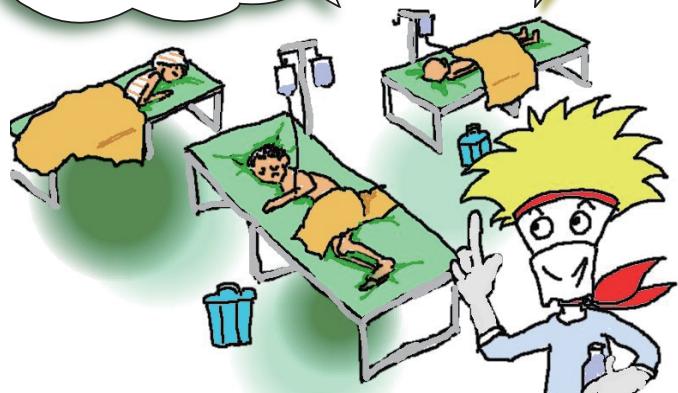
キャンプは、避難してきた人で、あふれかえって、病気が移りやすくなってるし…



2

★ユニセフの支援

安全な『水』の供給と、トイレ・手洗い場の設置も急いでるんだ。



感染拡大をくい止めるために、『コレラ治療センター』を設置。

3

★感染予防のためには

コレラ予防のためには、避難者に、手洗いなどの衛生習慣を知ってもらうことが、一番重要なんだ。



誰にでもできる、一番シンプルで、実はとても大切な取り組みなんだね！

10月15日は『世界手洗いの日』

もし、せっけんを使って正しく手を洗うことができたら、年間100万人もの子どもの命が守られると言われています。

※南スudanの詳しい情報については1ページを、『世界手洗いの日』については8ページをごらんください。



「ユニセフ・子どもセミナー ～まずは、知って・考え そして、行動しよう！～」 (コープみらい さいたまエリア)

7月31日～8月1日の2日間、埼玉県ユニセフ協会の主催で「ユニセフ・子どもセミナー」が開催されました。

1日目は、コーププラザ浦和で開催し、親子47人が参加しました。5つのテーブルに分かれてのアイスブレーキングで自己紹介をしたあと、ワークショップの「くさりゲーム」を行いました。紙や道具を不平等に与えられた複数のグループの間で、作成した「くさり」の数を競います。最初は何をするのか不安そうな様子だった子どもたちも、作業が進むにつれ積極的に意見を出し合いました。ゲームを通して、資源や技術が豊かな国とそうでない国ではさまざまな格差が生じてしまうことを実感し、お互いが協力し合うことの大切さを学んだようです。



他のグループとも協力しないとなかなか「くさり」はつくれません



続いて、世界の子どもたちの状況やユニセフの支援活動についての話を聞いた後、蚊帳に入る体験や地雷に触れる体験など計6つのコーナーで見て、聞いて、質問をしてさまざまなことを学びました。

2日目は、親子29人が参加し、ユニセフハウスを訪れ、ボランティアガイドの説明を聞きながら展示スペースを見学し、世界の子どもたちの問題やユニセフの活動に关心をもった様子でした。

アフリカでは、マラリアの感染から身を守るために蚊帳が大活躍しています。

参加者の感想

参加者からは「水がめ・銃がこんなに重いとは思わなかった」「地雷の威力がすごいことに驚いた」「子どもの権利条約を詳しく知ることができた」「子ども兵士と麻薬、ケアなどのユニセフ活動に关心を持ったので、文化祭などでみんなに伝えたい」などの感想が寄せられました。みなさん熱心に話を聞き、質問をしてユニセフ活動に対する理解を深めました。



児童ポルノ「単純所持」の禁止を含む法改正が実現

国際的な水準に一步近づく

「児童買春・ポルノ禁止法」の改正法案が成立しました。

日本ユニセフ協会が、長年訴えてきた児童ポルノのいわゆる「単純所持」の禁止・処罰化が実現することとなり、ようやく国際的な水準に一步近づきました。

法改正へユニセフが働きかけ



1997年以来、日本ユニセフ協会は児童買春や児童ポルノ問題の根絶をめざして、法律制定・改正への働きかけを行ってきました。1999年に「児童買春・児童ポルノ禁止法」が成立、2004年に一部改正された後もインターネットの普及などにより、被害の拡大・深刻化が進み「単純所持」を禁止することが急務であると考え、国会議員への働きかけなどを行いました。国際社会からの要請も高まっていました。

児童ポルノがない世界を目指して

117万筆を超える署名

2010年には、広く個人や団体、企業の賛同を得て「児童ポルノがない世界を目指して」国民運動を開始。全国から「単純所持」の禁止をはじめとする子どもの保護を最優先とした法改正の実現を求めて117万筆を超える署名が寄せられ、国会に提出しました。

そうしたみなさまの声が、子どもを守る一歩へとつながりました。

今後の国際社会との協力に期待

今回の法改正により、児童ポルノの拡散やさらなる被害を防止すること、日本が国際社会と協力して、この問題に取り組めるようになることが期待されます。

(参考資料：日本ユニセフ協会 HP 協会からのお知らせ 2014年)



「手をあらおう。手をつなごう。」
10月15日は世界手洗いの日



世界手洗いの日ってなあに？

世界で5歳の誕生日を迎える前に、命を終える子どもたちは、年間660万人もいますが、原因の多くは予防可能な病気。

その中で、水・トイレ・食事、それらが不足しているために、不衛生な環境や生活習慣を強いられ、下痢や肺炎にかかる命を失う子どもたちが、約170万人もいます。



(C)UNICEF/NYHQ2011-0140/Williams
汚染水により、病気が蔓延

もし、せっけんを使って正しく手を洗うことができたら、年間100万子どもの命が守られ、また下痢によって学校を休まなければならない子どもたちが、大幅に減ります。

自分の体を病気から守る最もシンプルな方法のひとつが、せっけんを使った手洗いです。

そこで、国際衛生年であった2008年に、正しい手洗いを広めるため、毎年、10月15日が「世界手洗いの日」に定めされました。

<http://handwashing.jp/what.html>

日本でも、プロジェクトがスタート

子どもたちの命を守るためにユニセフの取り組みのひとつが「せっけんによる手洗い」の推進。

毎年、10月15日の「世界手洗いの日」に合わせて、ユニセフは世界各国でせっけんによる手洗いで命を守ることができるというメッセージを広めるための取り組みを行っています。

日本では、2009年より「世界手洗いの日」プロジェクトがスタート。このプロジェクトは、趣旨に賛同した企業、組織の協力のもと、日本ユニセフ協会が主催。正しい手洗いは開発途上国の子どもたちだけでなく、日本の子どもたちにとっても風邪、感染症などの予防に有効です。

毎日する手洗いを通じて、自分の健康や世界の子どもたちのことを一緒に考えてみませんか。



GLOBAL HAND WASHING DANCE

知ってる？
「世界手洗いダンス」

正しい手洗いを
楽しみながら
学べるダンスです。
これを見て、
しっかり手を洗ってね！

http://handwashing.jp/library_dance.html

2014ユニセフリーダーセミナーを開催しました

7月25日、新大阪で2014年度ユニセフリーダーセミナーを開催し、全国15生協から47人が参加しました。

このセミナーは、ユニセフの活動と世界の子どもの状況についての学習と、参加生協のユニセフ活動についての交流を通して、地域でユニセフ活動に取り組む人材を育て、各生協での募金や学習活動などをさらに発展させていくことを目的にしています。



2014ユニセフリーダーセミナーに
参加された皆さん

プログラム概要

10:30	プログラム1（導入） ・日本生協連／日本ユニセフ協会からの報告
11:00	プログラム2（ユニセフ活動についての交流と発表） ・アイスブレーク／ユニセフ活動について会員生協報告とグループ交流
12:15	昼食
13:15	グループ発表
14:00	プログラム3（ユニセフ現地報告） ・草道裕子さん（ユニセフ・マレーシア事務所 オペレーション・マネージャー）
15:20	休憩
15:30	プログラム4（ユニセフ理解ワークショップ） ・ユニセフの栄養支援活動を知ろう～ミャンマー編～
16:50	セミナーまとめ
17:00	閉会

プログラム1（導入）

<日本生協連／日本ユニセフ協会からの報告>

日本生協連からは、2013年度ユニセフ募金実績、CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクトの進捗状況と2014年度アンゴラスタディツアーオンライン概要について、報告がありました。続いて日本ユニセフ協会からは、ユニセフと日本ユニセフ協会の概要説明の後、2013年に台風30号で大きな被害を受けたフィリピンのユニセフ現地事務所から届いた動画（感謝と状況報告）の紹介がありました。

プログラム2（ユニセフ活動についての交流と発表）

<交流テーマ：

地域とつながり、ツールも使って楽しく活動しよう

参加生協のユニセフ活動報告の後、「地域とつながり、ツールも使って楽しく活動しよう」と題し、意見交換と発表をグループごとにおこないました。また、地域とつながった活動を活発におこなっている京都生協から事例報告がありました。



グループワークでアイデア出し

グループごとの報告では、「活動を楽しくするために手ごろなツールがなければ作ればよい」、「支援国について学ぶために、その国の料理教室を開きたい」、「ユニセフカルタを作つて学校で使ってみたい」など、明日からの活動に具体的に生かせるアイデアや、「全国の生協のユニセフチラシの展覧会をやってほしい」などのリクエストがありました。

プログラム3（ユニセフ現地報告）

＜ユニセフ・マレーシア事務所 草道裕子さん＞

草道さんが赴任したスワジランド、バルバドス、マレーシアでのユニセフの活動についての紹介がありました。中進国に属するこれらの国々のユニセフ現地事務所では、国内格差、HIV/エイズ、障がい児支援などの諸課題に限られた予算の中で取り組んでいます。

講演後の質疑応答で、草道さんから「ユニセフで働く日本人には女性職員が多く、また現場のマネジャーにも女性が多い」との説明があり、参加者からは「女性の活躍がうれしい」とのコメントが寄せられました。



講師の草道裕子さん

プログラム4（ユニセフ理解ワークショップ）

＜ユニセフの栄養支援活動を知ろう～ミャンマー編～＞

2015年度に、ミャンマー指定募金「女性と子どものための栄養支援プログラム」が開始されることから、ミャンマーとユニセフの栄養支援活動への理解を深めることを目的として、ワークショップをおこないました。



どうしたら問題解決できるか発表



ロールプレイイング
「この村の課題は何か？」

ワークショップは、まずミャンマーを知ることから始まりました。「ミャンマーを知るクイズ」では国旗や首都など、知つていそうで知らないミャンマーの基礎知識について楽しく学ぶことができました。その後、ユニセフの栄養支援活動について理解を深めるため、グループごとにロールプレイを行いました（村長、保健省の役人、母親たちなど）。

参加者からは、「他生協、現地報告、ワークショップも今後の活動に参考になることばかりで毎回助かる」、「これから支援するミャンマーのことがよくわかり、なぜ支援が必要なのかがよく理解できた」、「ユニセフについて学ぶということが楽しい！と実感できた。他の人にもぜひ実感して欲しいと思った」などの感想が寄せられました。

アンゴラ・スタディーツアー報告～日本生協連～

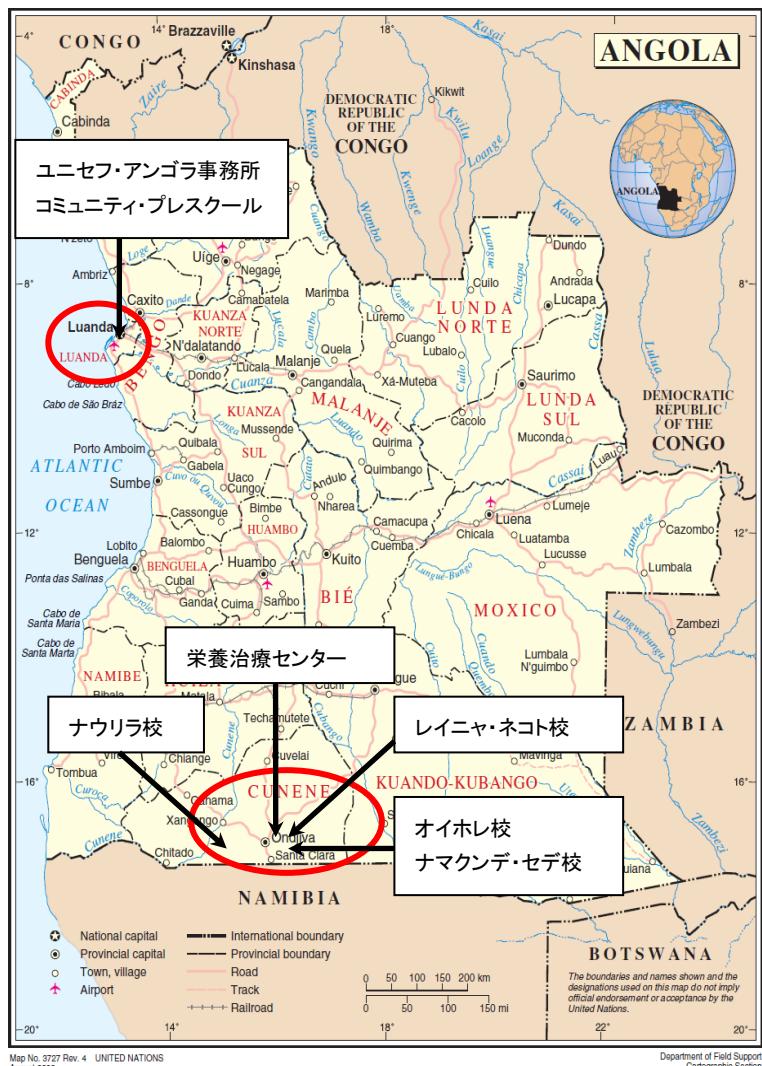
日本生協連は、2010年11月1日から「CO・OPコアノンスマイルスクールプロジェクト」を実施しています。CO・OPコアノンロールやCO・OPワンタッチ芯までロールを1パック購入いただくなびに1円の募金が積み立てられ、ユニセフを通じて、アンゴラ共和国で「子どもにやさしい学校」プロジェクトを支援するために使われています。今回のスタディーツアーでは、アンゴラ南部のクネネ州を訪れ、日本の生協の支援によって「子どもにやさしい学校」プロジェクトがおこなわれている現場などを視察しました。概要は以下のとおりです。

1. 観察地・観察日程

アンゴラ（首都 Luanda → クネネ州）

2014年6月28日(土)～7月5日(土)

6月28日(土)～29日(日)
空路、ドバイ経由でアンゴラへ
6月30日(月)
午前：ユニセフからの概要説明
夕：クネネ州教育局
7月1日(火)
朝：栄養治療センター
昼：ナウリラ校【支援校】
夕：レイニヤ・ネコト校
7月2日(水)
朝：オイホレ校【支援校】
昼：ナマクンデ・セデ校【支援校】
7月3日(木)
朝：コミュニティ・プレスクール
夕：ユニセフ事務所で振り返り
7月4日(金)～5日(土)
空路、ドバイ経由で日本へ



(地図提供：ユニセフ・アンゴラ事務所)

2. 参加者（敬称略、順不同）

新井ちとせ（生活協同組合コープみらい、日本生活協同組合連合会）、森泉幸子（エフコープ生活協同組合）、西梶三枝（生活協同組合コープかがわ）、田北信行（大分製紙株式会社）、加藤進太郎（マスコー製紙株式会社）、千寿満城（日本ユニセフ協会）、石尾匠（日本ユニセフ協会）、保田大蔵（日本生活協同組合連合会）、中村良光（日本生活協同組合連合会） 以上9人

3. 主な視察先とユニセフ活動の概要

（1）ユニセフからの概要説明

ユニセフ・アンゴラ事務所で、アメリカ・ルソー副代表、広報担当のグウェンさん、各セクション（予防接種・教育・人事・HIV／エイズ・モニタリングと評価・社会政策・子どもの保護）の担当7人が参加し、内戦終結後のアンゴラで子どもたちが置かれている状況、アンゴラ事務所の活動と今後の課題、教育分野におけるアンゴラ政府とユニセフの活動などについての概要説明を受けました。



ユニセフ・アンゴラ事務所が入る建物

（2）クネネ州教育局（表敬訪問）

州教育局長が不在につき次席のスラヤ監察官が対応し、参加者から視察目的およびCO・OPコアノン・スマイルスクール・プロジェクトの紹介をおこないました。

（3）ナウリラ校【支援校】

ユニセフの支援で2013年末に新校舎が完成、2014年4月9日に開校しました。新校舎には、6つの教室、4つの職員室を含めた事務所、男女別トイレがあります。日本の生協による募金は、トイレを含む給水施設の建設に主に活用されました。トイレの横にはユニセフの貯水タンクも設置されていましたが、トイレへの給水は始まっていませんでした。ドミニンガイさん（小学5年生・女子）は「新校舎、特にトイレができる嬉しい」とインタビューに答えてくれました。



ユニセフの支援で新設された洗面所

ナウリラ校の訪問後、学校に近い生徒の家も訪問しました。クネネ州は降水量の少ない気候で、2012～2013年にかけて深刻な干ばつが同州を襲いました。用水池の少ない水を牛が先に使い、次に人が飲料水や生活用水として使うことが、疾病率の高さに

もつながっています。ナウリラ校の給水施設は、同校に通う子どもだけでなく、近隣の子どもの生命を守る上でも大切な存在となっています。

(4) オイホレ校【支援校】

ユニセフの支援で2013年末に新校舎が完成、2014年4月9日に開校しました。新校舎には教室の他に、2つの職員室を含めた事務所、給水施設（井戸と貯水タンク）があります。日本の生協による募金は、給水施設の建設に主に活用されました。トイレは旧来からあったものが利用されていましたが、貯水タンクとはまだつながっておらず、人力＝バケツによる給水がおこなわれているとのことでした。

クネネ州の23校（ナマクンデ市ではオイホレ校を含む7校）では、日本の生協の募金を活用して衛生に関する研修も実施され、生徒による衛生クラブのメンバー、教員、生徒や親が受講しました。研修後、生徒による衛生クラブのメンバーは活動ニュース看板を作成しています。オイホレ校にもこの看板が設置され、子どもたちは衛生に関する寸劇や少量の水でもできる手洗い方法の実演などを披露してくれました。



(C) 日本ユニセフ協会_2014

コアノンロールを伸ばして子どもたちも長さを実感？

(5) ナマクンデ・セデ校【支援校】

ユニセフの支援で2013年1月に新校舎が完成、同年2日に開校しました。新校舎には、6つの教室、2つの職員室を含めた事務所、給水施設、男女別トイレがあります。日本の生協による募金は、給水施設やトイレの建設に主に活用されました。

訪問日に給水施設は稼働していましたが、片方のトイレと手洗い場は水が使えませんでした。一週間前に外部からの侵入者が設備の一部を破壊したのが原因とのことですが、募金の有効活用の観点からも、設備の保全についてユニセフのフォローアップが求められます。



ユニセフの支援で設置された給水施設

ナマクンデ・セデ校では、保健衛生の授業参観もおこないました。専門の研修を受けた先生が、手洗い方法の指導などを複数学年の生徒を対象に指導しています。「家では手を洗わない」と正直に答えてくれた生徒もいましたが、将来の職業については、大統領をはじめ、教師、警察官、医者、看護師、アナウンサー、サッカー選手などさまざまな夢を披露してくれました。C O · O P コアノン・スマイルスクール・プロジェクトは、アンゴラの子どもたちのこのような夢の実現の一助になっています。

(6) オンジヴァ市カクルバレ栄養治療センター【支援校】

比較的軽症の栄養不良児を対象とした、外来のみの栄養治療センターです。医師 2 人、看護師 22 人（うち 5 人はボランティア看護師）が 24 時間体制で治療にあたっています。

クネネ州全体では入院用センターが 62 カ所、外来用センターが 6 か所あり、ユニセフは、栄養治療用食品の提供などにより、栄養治療センターの活動を支援しています（C O · O P コアノン・スマイルスクール・プロジェクトによる支援対象ではありません）。

カクルバレ栄養治療センターは、出産や妊婦・新生児健診にも無料で対応しています。アンゴラでは全国平均で 40% の妊婦が自宅で出産をしていることから、病院での出産指導もおこなわれています。



通院してきた母娘

(7) レイニヤ・ネコト校（特別養護学校）

障がいのある子どもが自分のニーズに合った教育を受けることができるようにするという目的で、アンゴラ教育省の支援で設立された学校で、就学前クラスと小学校 1~6 年生の児童（846 人）が 2 部制で学んでいます（障がいの無い子も同校で学んでいます）。

水道がないため、親の出資で購入した水を貯水タンクに貯めて利用していますが、トイレは 1 つしかありません。校長や教師からは子どもたちへの心理的なサポートをおこなう専門家の雇用や、職業教育やパソコン教育のための教室の設置などへの支援が求められました。

ユニセフは現在も教員研修を通じて同校を支援しています（C O · O P コアノン・スマイルスクール・プロジェクトによる支援対象ではありません）、2015 年からは教育省と協力して支援を強化する予定です。



目の不自由な子によるメッセージの朗読

(8) コミュニティ・プレスクール

アンゴラでは公立の幼稚園や保育園がまだ少ない状況です。ユニセフは、公立の幼稚園や保育園の増設をアンゴラ政府に働きかけるとともに、政府と協力して私立の保育園（コミュニティ・プレスクール）に対する支援（増設ならびに園長の育成）も検



先生と一緒に「は~い！」

討しています。

訪問したコミュニティ・プレスクールは、5歳児までの児童120人を受け入れている私立の保育園で、カンデンゲ・ウニドゥというNGOが運営しています（同団体が運営するコミュニティ・プレスクールは2園で、他にもルアンダ市内にはコミュニティ・プレスクールが42園あります）。

4. 参加者の主な感想・意見とユニセフ・アンゴラ事務所の回答

クネネ州訪問後の7月3日にも再びユニセフ・アンゴラ事務所を訪れ、参加者の感想をもとに、アメリカ・ルソーフ副代表ほかのスタッフと意見交換をおこないました。



【参加者の主な感想・意見】

ユニセフ・アンゴラ事務所での振り返り

- アンゴラの物価高に驚きました。10万ドルの募金の価値は、日本で思うより少ないのでないかと感じました。
- 貧しい児童の家庭では、近くの干上がりつつある溜池の泥水を使っていました。水洗トイレなのに、バケツで水を汲んで流している小学校もありました。政府がもう少しうまいやり方で、給水設備を実際に使えるようにできないでしょうか。
- 手洗いを学校で教えなければならないことが、最初は衝撃でした。日本では家庭で教えるのが当たり前ですが、学校で教えられ、家庭に持ち帰り、地域に広がっていくことで病気を防げます。すばらしいことだと感じました。
- トイレや給水施設をつくっても、基本的な生活習慣（手を洗うとか、ゴミを捨てないとか）を子どもたちに根付かせるには時間がかかります。教育と人材育成が大切です。行政や地域をまきこみながら、「子どもにやさしい学校」づくりをすすめていけばアンゴラは変わると感じました。アンゴラは、人口の60%が18歳以下の子どもたちで構成される若い国です。教育によって子どもたちは夢を持つことができ、教育がアンゴラの将来の希望につながります。
- C O · O P コアノンロールとアンゴラを結びつける理論づけが、今回の訪問の目的でした。小学校近くの貧困家庭では、溜池の泥水を使っていました。幼い子どもたちは、あの溜池の泥水を飲んだら死んでしまうのではないか、小学校に給水施設ができたからこそ生きていけるのだと感じました。この商品を買ってくれるのは、お母さんたちです。その点を伝えることが、一番伝わりやすいと感じました。

【ユニセフ・アンゴラ事務所の主な回答】

- 発展途上国のアンゴラの物価高は疑問に思えるかもしれません。物価高の一番の理由は輸入に頼り（関税も高く）、供給が需要に追いついていないことです。物価高もあって立派な校舎を建設することはできません。日本からの募金は、給水施設と研修に主に使われています。
- クネネ州は多民族で、遊牧民が多くいます。遊牧民の家庭では子どもは学校に通えず、給水施設をつくっても他の土地へ移動してしまえば、その家の子どもたちは利用できなくなります。また、クネネ州は伝統的な文化を守る価値観が強い土地柄です。給水施設は、クネネ州政府とも協力して、伝統的な固い考え方の人の理解も得ながら整備をすすめています。

アンゴラからの帰国後、ツアーに参加したメンバーは、スタディーツアーを通して得られた体験をそれぞれの組織で報告し、ユニセフに対する理解を広げる活動をすすめています。

2014年度アンゴラ・スタディーツアーについては、日本生協連の「CO・OP ユニセフ支援活動サイト」でも概要を紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

<http://jccu.coop/unicef/smileschool/report.html>



The screenshot shows the CO・OP UNICEF Smile School Project website. The top navigation bar includes links for '生協とユニセフの輪', '生協の活動', 'キャンペーン', '現地レポート', and '知っとこ ユニセフ'. A sidebar on the left features buttons for 'キャンペーン', 'アンゴラって どんな国?', 'どんな支援ができるの?', and 'アンゴラ 現地レポート'. The main content area is titled '2014年度ユニセフ アンゴラスタディーツアー (2014年6月28日～7月5日)' and discusses the 3rd study tour in Angola, funded by the CO・OP UNICEF Smile School Project. It mentions the use of funds for water facilities and teacher training. A photograph of a young girl smiling is displayed.

また、今回のアンゴラ・スタディーツアー報告用DVDは、9月に完成予定です。

ぼむ・ぼむ広場

編集後記

- ◆ ディズニーランドでおなじみの曲“イッツ・ア・スマールワールド”（邦題“小さな世界”）ができて50年になります。1964年4月22日から開催されたニューヨーク世界博覧会に際して、ウォルト・ディズニーが製作し、ユニセフとペプシコーラ提供のもと出店したパビリオンで使用された曲です。その後、カリフォルニアのディズニーランドに移設される時にいくつか手直しされて現在の“イッツ・ア・スマールワールド”が完成しました。カリフォルニアのディズニーランドにあるイッツ・ア・スマール・ワールドの最後（日本では各国の挨拶が書いてある場所）に「"It's a Small World - a Salute to UNICEF"（イッツアスマールワールド - ユニセフの理念・理想に捧げる）」と表記されています。なお、ウォルト・ディズニーが製作を直接手掛けていない他のディズニーランドにはこの表記はありません。ご存知でしたか？（T）
- ◆ 私がこのぼむぼむ通信の編集に参加するようになって、もう1年が過ぎました。あっという間の1年でしたが、私たちをとりまく社会の状況は、大きく変化したように感じます。この夏は、今年1月に亡くなった私の父の初盆でした。昭和1ヶタ生まれの父は、徴兵はされませんでしたが、あの戦争でいろいろなことを体験したはずです。現在、私たちは平和な日本で過ごしていますが、世界に目を向けると、戦争を経験する子どもたちが増え続けています。私も、世界中の子どもたちが平和に暮らせるように願いながら、自分には何ができるのだろうと思いをめぐらす今日この頃です。（T）

ユニセフ*コープネットワーク

ぼむ・ぼむ通信

No. 64 2014年9月16日発行

編集 グループ ぼむ・ぼむ

スタッフ・編集／小池・武田・立川・土橋・浜崎・
松本・山本・石尾・中村・阿久根
イラスト／蜷沢

発行 日本生協連 組合員活動部

〒150-8913

東京都渋谷区渋谷3-29-8 コープフザ 11F

TEL03-5778-8124 FAX03-5778-8125

ホームページ <http://jccu.coop/unicef/>

○次号は、2014年12月15日に発行予定です。

ぼむ・ぼむ通信・ひとことカード

今回の「ぼむ・ぼむ通信」はいかがでしたか？ご感想やご意見・ご要望をお寄せください。次号以降の参考にさせていただきます。

生協名：

氏名（ペンネーム可）： 《組合員・役職員・その他》

ご協力ありがとうございました！下記の宛先までお送りください。

宛先：日本生協連 組合員活動部 FAX： 03-5778-8125 MAIL： kumikatsu@jccu.coop